

■第6回市民自治推進会議—参考資料 公募委員選考過程における意見

市民自治推進会議の市民公募委員の選考は、1次審査（書面審査：対象11名）、2次審査（面接審査：対象4名）により実施した。

【1次審査】

論文（テーマ「市民意見の市政への反映」）における意見概要

※北野委員、横江委員を除く9名の意見。

○市民がこれまでの行政依存の体質から脱却し、自分たちでできることは自分たちで解決するという努力が最も大事。また、地域には、高齢者、子ども、地域住民が一体となった交流を活発にすることが大事。若い人材を育成するとともに、元気な高齢者が地域で頑張れる方策も必要。

○暮らしやすいまちづくりの基本は、町内会活動にあるが、市民にはまだまだ市民参加という認識が薄い。自治基本条例を見たこともないという方が多い。まずは自治基本条例を全戸配布し、周知徹底する必要がある。その上で、まちづくりの基本となる考え方、情報の共有、自発的な市民参加を促したい。

○地域のニーズや課題を解決するためには、市民・行政・議会が同じ目線に立って情報交換し合うことが必要である。地域にはいろいろな課題や情報が舞い込んでくるが、逆に地域での情報を市政へボトムアップする場所が少ないのではないか。

○「市民意見の市政への反映」は「市民参加の仕組み」が充実して、初めて出来ること。条例制定以降、情報提供は進んできたが、市民参加の面では審議会などの公募委員の数がまだまだ少ない。条例もでき、市民自治への理解が進み、参加意欲の高い市民もいるので、増員を検討してもよいのではないか。

○広報さっぽろやホームページなど、情報源はあるものの、「市民参加」につながっていない。市民参加の推進には、市民の声を吸い上げ、その声が反映されていることを見せていく。自分たちの声が実際に届いていることを実感してもらう必要がある。その積み重ねが自信や信頼につながるのではないか。

○自治というものを実のあるものとするには、生活環境の向上という視点が欠かせない。生活環境とは生き物であり、手をかければかけるほど、生気を発する。自己の宅地や菜園などの美観を保つことに努力しているが、これこそ自治

であり、大切なことは手塩にかけることの意義である。

○市政への市民意見の反映には2つのキーワードに着目する必要がある。

・「市民自治の明暗を分けるもの」・・・市民自治の政策効果は、地域のレベルとコレクティブな利益に焦点を当てたソーシャルキャピタルの高低に着目して評価すべきである。

・「想定市民」の吟味・・・居住に無関係な「市民」を事柄に応じて「想定市民」としておく視点も吟味していくことが必要な場合がある。

○まちづくりはまず知ることから始まり、地域の財政に関心を持ち、「都市像」を語る必要がある。財政情報などの情報公開は充実してきたが、活用する側（市民、市職員、市議会）にどれだけ活用され、市民的に生かされているかが課題。自治基本条例の理念に基づき、市民・議員・市長・職員の相互信頼関係の醸成による連携が重要である。

○家庭生ごみの減量化施策の実効ある見直し、減量化に不可欠な家庭サポートを担うNPOや市民自治活動団体への協力支援が必要である。

【2次審査】

(面接テーマ「市民自治を推進していくための課題と解決について」)

(Aさん)

情報→共有→価値観

意識

地域市民委員会
チーム札幌

情報提供

(Bさん)

市民の
行政依存からの
変革！！

市民の責務

(Cさん)

町内会の弱体化

↓

- ①加入率アップ
- ②独自広報紙の発行
- ③町内会の情報共有

市政への市民参加

(Dさん)

単位町内会の再構築
例)資源回収(ダンボール
etc)による関係造り

↓

一歩進めた市民参加
例)街区公園リフレッシュで
の地元実行主体構築

町内会は重要

地域の拠点

まちづくりセンター

手をあげた人で
多様なマルチネット
ワークも

- ・行政依存を
実感していない
- ・行政と市民の
役割分担
- ・議会の役割